

新型コロナに負けない共同の運動を

みえ労連

代議員 向井正美

全労連大会第1号議案「20～21年度運動方針(案)」情勢の特徴の「8. 世論が政策を変える中での共同の拮がり」について原案に賛成し、補強するものです。みえ労連は毎年(今年は13回目)、「憲法キャラバン」行動で、県をはじめとする自治体を訪問し、三重県の副知事をはじめ、各市町長の皆様と懇談・要請をしてきました。

今年は新型コロナ「緊急事態宣言」発出によってやむなく中止をしました。

私たちは例年の「憲法キャラバン」に代えて憲法の理念に沿って以下の共同した「新型コロナに負けない共同の運動」の取組みを展開してきています。

以下にみえ労連も加わった県下の職場・地域でのさまざまな共同の運動について報告します。

1 マスク1万枚贈呈(「みえ労連新聞」6月号を参照ください。)

新型コロナ感染症の指定病院で頑張る三重県内の7つの病院、また厚生連病院を手分けして訪問しマスク1万枚を贈呈し医療に従事する方々を激励させていただきました。

マスクの入手・購入にあたっては政治状況が緊迫する香港経由であったために大幅に遅れましたが病院長はじめ医療従事者の皆さんに大変喜んでいただくことが出来ました。

2 三重県との懇談をすすめてきました。

新型コロナへの対応や「地域医療構想見直し」で、3月17日に三重県の関係課長と懇談をしました。「感染拡大なら病床不足」「公立公的病院削減は慎重に」との回答を得ました。6月にも再度の懇談。「病床確保、PCR検査」「減収補填」などを要望しました。更には県下の8地域の医療調整会議座長との懇談をすすめています。同時に会議の委員の皆様へも報告をしてきました。

3 三重の地域医療・介護をよくするネットワーク結成

新型コロナウイルスへの感染の予防・治療のために医療体制の確立、暮らしを支える介護サービスなどの継続、未曾有の経済的危機など、広範な脅威に立ち向かい県民のいのちと暮らしを守ろうと、医療・介護分野の関係者はもちろん、さまざまな分野の団体や個人が手をつなぎ共同の力で今年の5月10日に、「三重の地域医療・介護をよくするネットワーク」を結成しました。その中核として、み

え労連が奮闘しています。三重県下にある8医療調整会議座長との懇談を順次行ってきています。

4 65歳以上の「緊急住民アンケート」

新型コロナウイルスの度重なる感染の広がりなどを想定し、三重県内の医療資源の地域間格差をなくすため、6月から「緊急住民アンケート」（三重県内65歳以上人口の0.1%の5200名を対象に実施、8地域ごとに20%の回収）に取り組んでいます。先の緊急事態宣言発出時には島しょ部の鳥羽市や志摩市の市長さんのメッセージを真摯に受け止めさせていただきました。アンケート活動はいま継続中ですが、私たちは県内どこでもいつでも安全安心の医療介護めざす提言や応援をしていきます。

5 その延長線に「組織拡大」を位置づけて。

今回の新型コロナに負けない共同の運動を広げ、県下すべてに地域労連を結成したいと残る3地域の結成に向けて奮闘したいと考えています。

また介護の地域別緊急アンケートなどにも取り組みたいと思います。

この取り組みを、単産と地域労連一体で進めてきたなかで2日前に、ある介護職場で組合結成準備会を10名で発足しました

17年前に「地域労連がないのは三重だけ」と全労連から指摘され、その指導の下、着実にみえ労連を大きくし、順次5地域に地域労連を作ってきました。その結果、みえ労連は発足時5千名から、地域労連を増やすことによって、組合員を拡大し、約1000名を拡大してきました。

県下の8地域、全てに地域労連を結成したいとの決意を表明し発言とします。

以上